

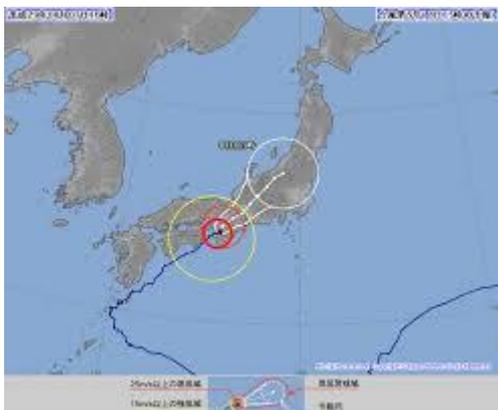
# 講演会 & ライブ な日々 ⑬

古川 秀明

## 「和歌山 串本 台風旅」

### 荒波越えて

8月7日、翌日にある講演会のために和歌山向かう。  
しかし、台風5号が和歌山に〜〜〜！



えらいこっちゃ！えらいこっちゃ！

和歌山直撃コースやん。

しかし、プロはどんなことがあっても仕事に穴をあけてはならない。

午前中に大阪を出ればなんとかなるかも・・・。

よっしゃ〜！おしゃくれ号でぶっ飛ばせ！

大阪はまだ曇り空程度だった。

高速道路を走り、堺や岸和田あたりも大丈夫、何とか通過。

この調子で行けば台風が和歌山に上陸する前に到着できるかも。  
ところが、台風は予想よりも早かった！  
順調に走っていたが、和歌山に入ったらすぐにどえらい風と雨のお出迎え。  
ラジオの情報では、風速25メートル  
ちょうど今、台風のド真ん中を走っているらしい。  
和歌山の高速道路はトンネルが多い。  
いつもはなんとなく「トンネルは暗くて嫌だなあ」と思うが、この日ばかりは雨  
風の影響のないトンネルが有難かった。  
しかし、トンネルを出る度に滝のような雨と風速25メートルが襲いかかる。  
車は風で横にあおられる。  
そのあおられ方が半端じゃない。  
車が浮く感覚。  
その凄さは、名古屋を通過した時のこの報道写真をみればわかる。



なんとトラックが風でひっくり返ったのだ。  
トンネルを出たら暴風雨の影響で走っている車が一齐にブレーキを踏む。  
追突の危険度が倍増する。  
だからみんな車間距離を思いっきり取る。  
湯浅御坊道路を通過。  
私が通過した5分後に湯浅御坊道路は台風の影響で封鎖された。  
まさに危機一髪。  
それでも目的地まではまだ遠い。  
しかも海沿いの道を走らないといけない。  
地元の人々の情報によると、台風が来ると海沿いの道は閉鎖されるらしい。  
過去の台風の時にも何度か車が波にさらわれ、死者も出た。  
それくらい台風の風は波を大きくする。  
けど、誰が何と言おうと、もう走りだしているのだから進むしかない！  
頭の中でこの歌がグルグルと回りだした。

<だけど僕らはくじけない！泣くのは嫌だ笑っちゃお！進め〜〜〜！>

## 海が見えた

高速道路を降りると目の前に海が広がっていた。



その波は半端じゃなかった。  
なるほど、こんな波なら車もさらわれる。



太平洋の荒波は凄い。  
だけど、見ていて壮観だ。  
ドッパ〜ン、ザッパ〜ン！  
考えようによっては、こんな景色はめったにお目にかかれない。  
いくら見ていても飽きない。



コンビニでコーヒーを買い、真っ黒な空と波の音、風の音、雨の音を聞く。  
自然に哲学的になる。  
こんな時間があるから旅はやめられない。



そうこうしているうちに台風は足早に過ぎ去って行った。  
水平線の向こうは晴れ間が出てきた。



波も穏やかになり、なんだか荘厳な景色に変わってきた。

ラジオによると、高速道路はまだ閉鎖中。

さて、そろそろ出発しよう。

潮岬の近くで主催者の人と合流。

台風の中やって来たので、みなさんとてもびっくりされていた。

そりゃそうだろう、誰がどう考えても無謀だ。

しかし、私は来たのだよ。

明日の講演会&ライブの中止や私の代役探しも検討されていたとのこと。

いやいや、私がやらせていただきます。

主催者の方が潮岬に案内してくれた。



和歌山の綺麗な海が広がる。

台風一過で空気も澄んでいて、とても気持ちが良い。

主催者の人も、近くに住んでいるから普段はあまり来ないけど、こんな潮岬を見るのは初めてだそう。



潮岬には潮岬観光タワーがある。

これは相当昔からあるぞ。

バイクでも何度か来ているから懐かしいなあ。

どこか1970年代の匂いがまだ残っている建物だ。

台風の中ががんばって営業していた。

季節の良い晴れた日にはライダーがいっぱい集まっていた。

当時はアメリカンバイクにはまっていたので、ピカピカに磨いて自慢げにバイクを置いたものだ。



この雰囲気なんとも昭和ですなあ。

昔はドライブインなんて言葉もあった。

今でいう道の駅かな。

ちょっとタイムスリップ気分。

というか、年取ったことの実感やね。

潮岬展望タワーの前には有名な「望楼の芝」が広がる。



ただっ広い芝生の広場だが、ところどころこんもり盛り上がっているところもある。

潮岬の先端に広がる約 10 万㎡の大芝生。

その昔、海軍の望楼(物見櫓)があったところで、「太陽の 出て没るまで 青岬」と山口誓子によってうたわれているように、眼前には緩やかな弧をえがいて太平洋が広がり、地球が丸いことが実感できる。



こんな感じ。

ね、ここなら敵艦隊をすぐに発見できるでしょ。

それに鯨がやってきたこともわかったそうだ。

とろどころこんもりしているのは海軍の砲台があったところ。

つまり、こんもり盛りがったところに大砲を据えて、海から来る敵艦隊を攻撃するための砲台。

そしてその先にあるのが本州最南端の地。



どうでい！

嵐と共にやってきた～！

誰だ誰だ！敵を蹴散らす正義のふるかわ～～！

（古い歌です。この歌を聞いてショッカーを思い出したあなた。立派な中高年ですよ（^v^））

本州最南端にはこんなのもありましたよ。



ここから本州最北端の人に手紙を出してみたいなあ。

本州最北端てどこだろう・・・。

（青森県の大間崎でした。いつか旅したいなあ）

潮岬灯台

明治3年に初めて灯りが点いて以来、100年以上現役稼働している凄いな灯台。



白い灯台が青い海と緑の丘によく映えてる。  
灯台をみると必ず「喜びも悲しみも幾歳月」の歌が頭の中に流れてくる。  
デコちゃんこと、高峰秀子さんが出ている映画は全部観てるもんね。  
音楽は木下忠司。  
どうやったらこんな哀愁漂うメロディーが浮かんでくるんだろう。  
女性コーラスの付け方もかっこいい。  
このパターンは当時の歌謡曲によくみられるパターン。  
例えば橋幸男の「江梨子」という名曲もこんな感じ。  
女性のソプラノの高い声が男性のアルトによく響いている。  
と、まあそんな音楽解説をしている場合ではない。  
とにかくこの灯台は美しい。  
お城で言うなら白鷺城てとこかな。



灯台の前まで行くとこんな感じ。  
100年間にいろんな人がこの灯台を訪れたんだろうなあ。  
旅に出ると想像力が強くなる。  
あかん、また旅に出たくなってきたぞ。  
これぞ灯台のお役目！  
昼間の灯台はヴィーナスのように美しい姿でいるが、夜は働く凄腕キャリアウーマンに変身する。



トワイライト・タイム

灯りが点灯したぞ。

まだ周辺が明るいからさほど灯りの強さを感じない。

だけど、これはこれで十分綺麗だ。

人工物も捨てたもんじゃない。

さてさて、あたりが真っ暗闇になると・・・



どうでい！

この見事な灯りが目に入らないかよ～。

すんごいぜ～。

まるでカメハメハ～～～

これなら沖ゆく船の安全を守れるね。

美しい姿とたくましい仕事。

う～ん、俺も灯台みたいになりたい。



白い柱に木の看板を打ちつけてあるのがまたレトロで良い。  
このあたり一面、黒潮の香りがしてとても気持ちがいい。  
まさに潮風。  
しかし、あっという間に体がべちゃべちゃにちゃにちゃしてきたぞ。  
海水浴した後みたやわ。  
ま、これも海に来た証だね。



灯台君、いつかまた会おうね。  
灯台カウンセラー目指します！

(旅はまだまだ続きますが、続きは次回に・・・)

シンガーソングライター

ふるかわひであき